

# 「新たな住まい」と森林資源循環による持続可能な地域の形成

## 研究目的

北海道では、経済成長期以降の産業構造の転換（一次産業から二次、三次産業へのシフト）、情報産業への移行、地域の人口減少、少子高齢社会の進行等により、地域産業の地盤低下が著しい状況です。このような社会経済情勢の中、林業・林産業分野では、道内人工林資源の充実を背景とした森林・林業の再生の機運が高まっています。

森林資源の資源循環を促進させ、持続的かつ活力ある北海道の地域産業の形成を目指し、北海道の各地域における「新たな住まい」を構築して住宅関連産業と森林関連産業が融合した基幹産業とするための技術開発を行い、その展開方策を明らかにすることを目的とします。

## 研究概要

この研究では住要求の変化や地域特性への対応等、これからの北海道に求められる「新たな住まい」を明らかにし、その実現に向けて、道内森林資源を活用した工法や部材の開発、住宅の環境負荷低減を高める技術開発を行います。さらに森林資源の建築用材への利用拡大に向けて、4機関が連携し、高品質な道産木材を低価格にて供給できる体制づくりと原料の安定供給を実現する森林資源の管理手法の開発を行い、住宅と建築用材供給システムによる「森」と「住」の循環システムの構築とビジネスモデルの提案を行います。

今年度は、「新たな住まい」の構築に向けて、圏域別の居住ニーズ調査、住宅生産者へのヒアリング、省エネ性能から見た目標設定等を行いました。



図1 研究の概要

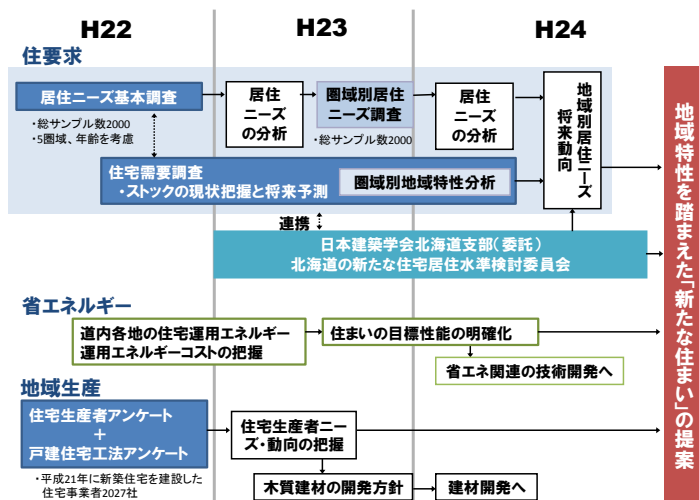


図2 「新たな住まい」の検討フロー

## 研究の成果

今年度は、居住者ニーズ、住宅需要、住宅生産等についてアンケートやヒアリング等各種調査を実施し、「新たな住まい」構築の基本方針と目標性能を検討しました。また、木材使用量の算定や、内外装への道産材利用拡大に向けた検討の基礎となるモデル住宅（戸建て・共同）を設定しました。

今後は（社）日本建築学会北海道支部に委託して実施している「北海道の新たな住宅居住水準検討委員会」の検討結果も踏まえ、「新たな住まい」の目標像を明確にし、具体的な建材、構法開発に取り組むとともに、住宅の性能表示やユーザーのための情報提供のあり方などについても検討を行っていく予定です。

北方建築総合研究所（担当グループ）  
居住科学部居住科学グループ  
環境科学部環境グループ  
環境科学部構法材料グループ

共同研究機関  
林産試験場、林業試験場、工業試験場